2017

身だしなみを整えることによる心の快復

Make-up Corner for Evacuation Centers

AD16 武内彩夜乃
指導教員 坂元愛史

1. 研究目的

現代における身だしなみは、女性の化粧のみならず、男性にも一定の基準が求められている。一方で、近年多発する災害からの避難生活において身だしなみの重要性は低く見積もられる傾向にある。しかし避難という非日常から日常に戻るためには身だしなみを整える行為が重要なポイントとなるのではないか。そこで、この日常回復につながる行為を効果的に行う方法について研究することとした。

2. 調査と結果

調査から以下のことがわかった

2－1. 化粧(身だしなみ)の効果について

・化粧により脳血流が高まることでポジティブになり、ストレスホルモンが減少、「心、身体、脳、口腔」の健康に効果がある

・スキンケアを丁寧に、化粧を毎日する人のほうが生きがい感を高く持つ

・化粧をすることで心身の快復を図る活動(コフレプロジェクト等)が効果をあげている

2－2. 災害及び避難所生活について

・避難所生活ではパーソナルスペースが確保できないことが原因でストレスが高い

〈2－1,2 結果〉災害時の優先事項は衣食住だが、被災者が心の快復をするためには身だしなみを整えるという行為が効果をあげる可能性がある。

2－3. ジェンダー(性差)の問題について

・近年のジェンダー研究では「女性らしさ」「男性らしさ」という固定観念に疑問が呈されている

〈結果〉身だしなみの効果は男女によらないと考える。

3. コンセプトおよびアイディア展開

災害時に男女問わず、かつ気兼ねなく身だしなみを整える空間を確保することが心を快復させ、日常を取り戻す。そのために以下の条件を考えた。

①既存のボランティアに多い、化粧をしてもらう化粧療法ではなく、自分で化粧をできること

②化粧室のように不特定多数が対象ではなく、家族単位で使用できるように避難所パーテーションの中に設置すること

③避難生活の多様さを考慮し、設置、移動が容易

④予算が少ない自治体にも購入できるように安価であること

試作モデルは、パーテーションにぶら下げて使用する。簡易で安価、かつ安全なプラスチック段ボールとアクリルミラー使用の小型化粧台とした。これは体格に応じて鏡の位置が変更可能であり、棚の高さが二種類あるなど、狭いスペースで生活するための工夫を施した。

検証1として学園祭で展示した結果、その有効性を認める声が多かった。また検証2として、コンソーシアム八王子における展示発表に参加した。結果として優秀賞を受賞できた。

4. 最終提案（作品）

検証1，2や学内での中間発表等で指摘された点を改良して、最終提案品を作成した。

・様々なパーテーションへ取り付け可能とするため、固定部をクリップに変更し、磁石で高さを変更できるようにした

・鏡部分に扉を取り付け、使用時における他者からの視線の軽減を図った

5. 今後の発展

避難生活者や自治体管理者などへの検証を行うことで、より現実的な提案としていけると考える。また安価で強度のある素材については更に検討もする必要があるだろう。

資料

[1]資生堂ライフクオリティ事業
https://www.shiseido.co.jp/lifequality/effect/index.html
[2]コフレプロジェクト
http://lalitpur.jp/coffretproject/
ネパールで人身売買被害にあった女性を対象にした化粧療法（現在は職業訓練、ブランドの確立、自立のための雇用の役割も）
[3] 公益社団法人モバイル・ホスピタル・インターナショナル
http://www.mobilehospital.org/shelter/
石巻赤十字病院が2011年4月に行った調査では国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）が定める3．5平方メートルを下回った面積で被災者が過ごしていたために改善を要請された事例がある。